

1. 募集人員

法 文 学 部	{	法 文	約180名
		学 学 課 程	約90名
教 育 学 部	{	初等教育科	第一 (初等教育課程のみ) 約85名
			第二 (専門課程において算数・理科・音楽・美術・保健・家庭・英語を兼修するもの) 約15名
	{	中等教育科	国語 約7名
			数学 約7名
			物理 約4名
			化学 約4名
			生物 約3名
			地学 約3名
	{	体育科 約25名	
		特別体育科 約30名	
	{	数 学 科 約30名	
		物 理 学 科 約20名	
化 学 科 約20名			
生 物 学 科 約20名			
地 学 科 約10名			
理 学 部		約80名	
医 学 部		約40名	
薬 学 部		約40名	
工 学 部	{	土木工学科 約30名	
		機械工学科 約60名	
		工業化学科 約50名	
		化学工学科 約50名	
		電気工学科 約50名	
		精密工学科 約40名	
電子工学科 約40名			
工業教員養成課程 (裏面「工学部について」参照)			約15名

2. 入学資格

- (1) 高等学校を卒業した者、
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者(通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む)、
- (3) 高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者、
- (4) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者、

3. 入学者選抜の方法

入学者の選抜は、学力検査、健康診断および出身学校から提出された調査書による。

(1) 学力検査

学力検査は高等学校卒業の学力を標準として、次の表に示す5教科について行なう。
出願の際受検希望の科目を国語および数学を除く他の教科について表の区分により選択し、あらかじめ志願者名票により届け出なければならない。選択した科目以外では受検できない。

教科	科目	区 分
国語		国語(甲)を解答させるほか、国語(乙)あるいは漢文のうち、どちらか1科目を選択解答させる。 なお国語の中に作文を含む。
社会	社会史 世界史 人文地理	法文学部の受験者は2科目を選択する。 理学部、医学部、薬学部、工学部の受験者は1科目を選択する。 教育学部の受験者は別項による。
数学		法文学部、教育学部の受験者の受検範囲は数学I、数学IIとする。 理学部、医学部、薬学部、工学部の受験者の受検範囲は数学I、数学II、数学IIIとする。
理科	物理 化学 生物 地学	法文学部の受験者は1科目を選択する。 理学部、医学部、薬学部、工学部の受験者は2科目を選択する。 教育学部の受験者は別項による。
外国語	英語 ドイツ語	1か国語を選択する。

1 教育学部の受験者は、社会および理科の選択については、「社会2科目、理科1科目」または「社会1科目、理科2科目」のいずれかを選ぶものとする。

1 教育学部の体育科、特別体育科および中等教育科の音楽、美術の志願者には、それぞれ「志望学科の実技テスト」を行なう。音楽、美術を第2志望とするものも実技テストを受けなければならない。

1 医学部、薬学部、工学部の受験者は理科の科目のうち物理および化学で受検するよう希望する。

学力検査日時

日 時	午 前	午 後
3月3日(火)	国語(9.30~11.30)	社会(1科目 1.00~2.30 2科目 1.00~4.00)
3月4日(水)	外国語(9.30~11.30)	理科(1科目 1.00~2.30 2科目 1.00~4.00)
3月5日(木)	数学(9.30~12.30)	実技テスト 1.30から 健康診断(要再診者) 1.30から

学力検査場

志願学部	検査場	所在地	志願学部	検査場	所在地
法文学部	法文学部 教養部	金沢市大手町1	医学部	医学部	金沢市土取場永町15
教育学部	教育学部	金沢市大手町1	薬学部	薬学部	金沢市土取場永町15
理学部	理学部	金沢市仙石町37	工学部	工学部	金沢市上野本町丁55

(2) 健康診断

イ 提出された健康診断書によって審査し、必要と認めるときは、本学で健康診断を行なう。これに関する事項および診断を受ける者の受験番号は3月5日学力検査場に掲示する。該当者が診断を受けないときは、資格を失う。

ロ 合格者については、入学式の前日あらためて本学において必要な健康診断を行なう。診断の結果、就学に支障があると認めた場合および理由なく診断を受けないときは、入学の許可を取り消す。

(3) 調査書

イ 文部省所定の様式により出身学校で作成したもの(氏名上の欄外に志願学部名を記入のこと)。志願者から直接出願書類を提出する場合は、学校長において厳封を要する。

ロ 大学入学資格検定試験の合格者は、当該試験の成績証明書を提出して調査書に代える。

ハ 調査書の提出困難な学校(廃校、罹災等)の出身者は、その旨を証明した書類をもって調査書に代える。

ニ 外地引揚者は、引揚事務を所管する機関の長の証明書をもって調査書に代えてもよい。

4. 合格者発表

合格者の氏名は、3月20日ごろ本学教養部掲示場に発表し、かつ郵便で本人あて通知する。

5. 出願手続

(1) 願書受付期間

昭和39年2月1日から昭和39年2月10日まで、毎日午前9時から午後5時まで、ただし土曜日は正午までとし、日曜日を除く。
郵送による場合も所定期日までに必着を要する。

(2) 願書提出先

各志願学部の学生係あて提出すること。

法文学部	金沢市大手町1	医学部	金沢市土取場永町15
教育学部	金沢市大手町1	薬学部	金沢市土取場永町15
理学部	金沢市仙石町37	工学部	金沢市上野本町丁55

(3) 志望順位

次の学部では、同一学部内で第1、第2志望の出願ができる。

法文学部……………課程別

教育学部……………別項(裏面「教育学部について」参照)

理学部……………学科別

(4) 提出書類および要領

入学志願者は、次の書類を一括して出身学校を経由し所定期日までに到達するよう提出しなければならない。ただし事情止むを得ない場合は、出願書類を直接志願者が提出し、出身学校へ関係書類の進達を依頼するようにしても差しつかえない。

イ 志願者名票 本学所定の用紙による。

ロ 写真2葉 正面向半身脱帽で出願前3か月以内に撮影したもので本学所定の用紙にのり付けする。

ハ 入学検定料 金1,500円(現金のこと)

ニ 調査書 3の(3)参照。

ホ 健康診断書 本学交付の用紙により国公立病院(保健所を含む)で発行されたものに限り。

ヘ 封筒1枚 受験票等送付のため、自己の住所氏名を明記し10円切手をはつたもの。

(注) 1 出願当時大学に在籍するものは、当該大学の受験許可書を添付すること。

1 外国人の志願者は、出願書類と共に外国人登録証明書の写を提出すること。

注 意

1 出願書類を郵送する場合は、封筒の表に「入学願書」と朱書きし、必ず書留郵便として志願学部へ提出すること。

1 出願手続後はいかなる事情があつても書類の変更、検定料の払いもしはしない。

1 出願手続に不正の事実があつた場合は、入学許可を取り消す。

1 志願書類の郵送を希望する者は、自己の住所氏名を記載し10円切手をはつた封筒を同封して「金沢市大手町1 金沢大学学生課教務係」あて申し込むこと。

1 受験に関し本学に照会の際は、志願学部、受験番号を記入し、往復はがき、または返信用封筒(あて名を明記し切手をはつたもの)を同封のこと。電信電話等による問い合わせは一切応じない。

昭和38年10月

金 沢 大 学

1. 本学の学部・学科は次のとおりである。

法 文 学 部	法学課程（法学科・経済学科） 文学課程（哲学科・史学科・文学科）
教 育 学 部	初等教育科・中等教育科・体育科・特別体育科・聾教育科
理 学 部	数学科・物理学科・化学科・生物学科（動物専攻・植物専攻）・地学科
医 学 部	医学科
薬 学 部	薬学科
工 学 部	土木工学科・機械工学科・工業化学科・化学工学科・電気工学科・精密工学科・電子工学科

1. 法文学部・理学部について

法文学部・理学部の学生で各学部所定の課程のほか、教職科目を履修した者は、それぞれ学部所定の教科につき中学校教諭一級普通免許状および高等学校教諭二級普通免許状が与えられる。

1. 教育学部について

1 初等教育科 は小学校教員養成4年課程。小学校教諭一級普通免許状のほかに、1教科の中学校教諭二級普通免許状または幼稚園教諭一級普通免許状を取得することができる。

中等教育科 は各教科の中学校教員養成4年課程。専攻する1教科の中学校教諭一級普通免許状および高等学校教諭二級普通免許状のほかに、希望により他の1教科を選んで中学校教諭二級普通免許状を取得することができる。

体育科 は保健体育の高等学校教員養成4年課程。高等学校教諭二級普通免許状（保健体育）を取得することができる。

特別体育科 は保健体育の中学校および高等学校教員養成4年課程。中学校教諭一級普通免許状および高等学校教諭二級普通免許状（保健体育）のほかに、特定の教科のうち1教科の中学校教諭二級普通免許状を取得することができる。

聾教育科 は聾教育に従事する小学校教員養成課程。初等教育科第二課程に入学した者は、本学部において初等教育課程科目のほかに最終の2年間に聾教育に関する専門科目を兼修するものとし、聾学校教諭一級普通免許状および小学校教諭一級普通免許状のほかに、1教科の中学校教諭二級普通免許状を取得することができる。

2 初等教育科第一課程志願者および第二課程志願者は互いに他を第2志望として選ぶことができる。

3 体育科および特別体育科の志願者は、互いに他を第2志望として選ぶことができる。

4 中等教育科の志願者は、その専攻希望の教科を第2志望まで選ぶことができる。

1. 工学部について

工学部志願者（精密工学科・電子工学科の志願者を除く）は工業教員養成課程志望の有無を名票裏面の記入欄へ必ず表示すること。

工業教員養成課程を修める者は土木工学科約3名、機械工学科約4名、工業化学科約3名、化学工学科約2名、電気工学科約3名、計約15名であつて、各学科それぞれ所定の課程を履修することは他の学生と同じであるが、日本国憲法2単位、職業指導4単位を必修しなければならない。これにより高等学校教諭二級普通免許状（工業）を与えられるが、卒業後教員になる義務はなく、他の卒業生と同じである。工業教員養成課程以外の者でも入学後、学部長の承認をうけて、上記の科目を修め同一免許状をうけることができる。

1. 修業年限について

大学入学後初めの1年半（医学進学課程は2年）は、すべて本学教養部で主として一般教養課程を、後の2年半（医学部の専門課程は4年）はそれぞれの学部において専門課程を履修する。

1. 身体的疾患および色覚異常について

本学志願者は自己の身体条件を考えて次の各項にわたり熟読の上事前に専門的検査を受けておくことが望ましい。

1 次の疾患を有する者は入学を許可しない。

(1) 全治の見込みがないかまたは再発のおそれの多い精神機能障害

(2) 急治の見込みのない伝染性疾患（特に結核）

2 学部、学科によつては学修上支障があると認められる、極度の運動機能障害・奇形、著しい言語障害・聴力障害・視力障害（基準：1眼あるいは両眼をもつていても裸眼あるいは矯正視力が0.6に達しないもの）のある者は入学を許可しない。

3 強度の色覚異常者は次の学部、学科または専攻課程の履修が困難であるから入学を許可しない。

教育学部 初等教育科、中等教育科（理科・美術・保健・技術・家庭・職業の専攻課程）

理学部 物理学科・化学科・生物学科・地学科

医学部

薬学部

工学部

（注 強度の色覚異常者とはアノマロスコープにより色盲または極度色弱と判定されるものをいう。）

1. 学資について

1 入学の際の費用としては、入学金 1,500 円、授業料 1 期分金 6,000 円（年額 12,000 円を 2 期に分納）学生健康保険組合費 4 か年分金 4,000 円ただし 6 年課程（医学部）金 6,000 円を納入しなければならない。

2 理学部・医学部・薬学部・工学部等の理科学系学部では、実習用器材等の購入のため、一般教養課程では年額 1,000 円から 2,000 円、専門課程においては、年額 3,000 円から 5,000 円位を負担させることがある。

3 専門課程に入ると専門図書、研究旅行、実習等の出費が不定期に必要となる場合がある。

4 寮費および下宿費

寮費は二食付約 3,000 円～4,000 円、下宿費は二食付約 7,000 円程度で、入寮者は学費とも 1 か月約 6,000 円～7,500 円、下宿者は約 10,000 円～12,000 円程度が普通である。本学の寮へ入寮できる数は希望者の一部（約 70 名）である。

5 奨学金制度については、入学許可通知の際詳細連絡する。

◎宿泊斡旋について

遠隔地の受験者に対して本学学生が例年宿舍を斡旋しているが、申し込み方法等詳細なことは、受験票等送付の際に連絡する。